

## 「シンクイムシ」とは?

「シンクイムシ」や「ダイコンシンクイムシ」の通称で知られている害虫ですが、正式な名前は「ハイマダラノメイガ」です。

成虫は、写真1のような姿で、体長7～9mm程度です。幼虫は、成長すると体長14mm程度、頭が黒く、背面に褐色の縦じまがあります。幼虫は、作物の芯（生長点）に入り込んだり、若い葉を綴つて食害します（写真2、3）。作物を食害する幼虫を捕まえたとき、「見す」とういいめ色に見えるでしょう（写真4）。

なお、幼虫はキヤベツ、ブロッコリー、ダイコン、カブ、ハクサイ、チンゲンサイ、コマツナなどのアブラナ科野菜を食害します。また、同時期の栽培では、キヤベツやブロッコリーよりも、ハクサイやダイコンを好むとされています。

# 農業だより

## 知っておきたい「シンクイムシ」の生態と発生時期

神奈川県農業技術センター三浦半島地区事務所 奥村 一

6月なのに「シンクイムシ」の話かい?と思われるかもしれません。実は目立たないだけで、早い時期からわずかに発生しているのです。

今回は、秋冬野菜の育苗が始まる前のこの時期に「シンクイムシ」は、いつごろから気をつけなければならないか?を中心として生態と簡単なモニタリング手法について紹介します。



写真3 ダイコンでの被害  
(県農業技術センター病害虫防除部提供)



写真2 キャベツでの被害  
(県農業技術センター病害虫防除部提供)



写真4 ダイコンの葉を綻び、中に潜む幼虫(写真上下に撮影者の指が映り込んでいる)  
(県農業技術センター病害虫防除部提供)

## 「シンクイムシ」はいつ頃発生するのか?

一般的に成虫の発生は、4月頃から確認できますが、4～7月頃までの発生量は少ない傾向となります。8月以降、徐々に発生が目立つようになり、9～10月に発生のピークとなります。なお、年間の成虫の発生時期と発生量のイメージは、図1のとおりです。

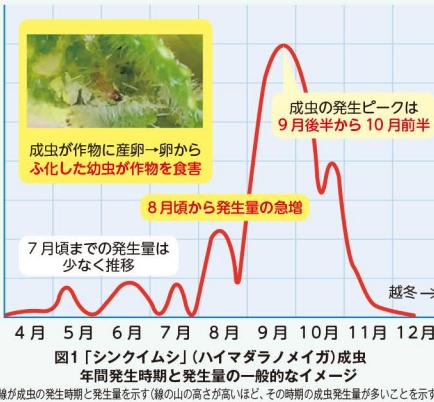


写真1 「シンクイムシ」成虫  
(県農業技術センター病害虫防除部提供)

## 簡単な被害モニタリング

「シンクイムシ」の被害を効果的に防ぐには、成虫の発生をなるべく早く把握することが重要です。前述のとおり、「シンクイムシ」はキヤベツやブロッコリーよりもハクサイを好むといわれています。

そこで、農業技術センター三浦半島地区事務所では、平成30年(2018年)7月からハクサイを簡易栽培し、被害発生時期を把握するための簡単なモニタリング調査を行いました(図2)。

この方法のポイントは次のとおりです。

- ①ハクサイを使う(キヤベツ、ブロッコリーよりも被害が出やすい傾向を利用)
- ②定期的に種まき(常に柔らかい植物体を準備)
- ③定期的な観察(朝・夕の観察が理想)
- ④被害株は速やかに除去(キヤベツ、ブロッコリーよりも被害がいつの被害かわからなくなるのを防ぐために)

皆さんは、も庭先など、ちょっとしたスペースで、ハクサイを使った「シンクイムシ」被害モニタリングをしていることが推測できました。

平成30年の調査では、8月2日に最初の被害を確認し、少なくとも7月下旬から成虫が産卵していることが推測できました。

皆さんも庭先など、ちょっとしたスペースで、ハクサイを使った「シンクイムシ」被害モニタリングを利用して、効率的な防除に役立ててみてはいかがでしょうか?



「シンクイムシ」の初期被害は赤枠の写真のような状態となる

- ・は種を、7日おきに実施→常に柔らかい植物体を準備
- ・定期的な観察
- ・被害が認められた株は、速やかに除去
- ・かん水などの管理作業を考慮した場合、容量の大きな栽培用容器での栽培も考えられる

\*この方法は、被害発生時期の始まりや、その後の発生状況の推移への利用が期待できる

図2 ハクサイ簡易栽培による「シンクイムシ」被害の簡単なモニタリング